

「松山の授業モデル」とICT活用（美術科）

学習場面 (松山の授業モデル)	ICT活用例
<p>■ 学習課題の設定</p> <p>習得・活用・探究</p>	<p>感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に発想や構想をする場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「A表現」の学習活動では、学習効果を高めるために、視聴覚機器などを用いて表現方法を提示することができる (A1)。 ・実際の表現の活動において、発想や構想をする学習場面では、ICTを用いることで、インターネットやデジタル教材を用いた情報収集などに活用したり (B2)、アイデアスケッチや編集などをタブレット型の学習者用コンピュータを用いて各自で試行錯誤したり、考えを深めたりする学習を行うことなどが考えられる (B3)。 <p>表現の可能性を広げ、創造的に表す場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現の可能性を広げるために、効果的に写真・ビデオ・コンピュータ等の映像メディアの積極的な活用を図ることが求められる (B1、B4)。 <p>美術作品や美術文化などの見方や感じ方を広げたり深めたりする場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「B鑑賞」の学習活動では、大きさや材質感など実物に近い複製、作品の特徴がよく表されている印刷物などとともに、ビデオ、コンピュータなどの画像や映像などを使い、効果的に鑑賞指導を進めること (A1、B1) が必要である。
<p>■ 交流し考える学習</p> <p>交流・表現・体験</p>	<p>感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に発想や構想をする場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品の写真を大型提示装置に映し出して発表する (C2)。 <p>美術作品や美術文化などの見方や感じ方を広げたり深めたりする場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオ、コンピュータなどの画像や映像などを用いて自分の気付いたことや考えたことなどをお互いに言葉で説明し合う活動を通して、自分にはない新たな見方や感じ方に気づき、それぞれの見方や感じ方を広げたり深めたりすることが考えられる (B3、C1、C2)。 ・鑑賞する作品や作者について、インターネット等を活用して国内外の作品や作者について調べたり、美術館、博物館等のWebページを閲覧したりするなどして、生徒の見方や感じ方を広げたり、深めたりするような活用 (B2) が考えられる。 ・インターネットやテレビ会議を用いて、学校外の美術の専門家から学んだり意見交換したりすることや、他校の生徒たちや地域の人々と交流し、異なる考えやそれぞれの国や地域の美術文化にリアルタイムに触れることにより、多様な見方や感じ方を身に付けたりすることができる (C4)。
<p>■ 学習の振り返り</p> <p>内容×方法</p>	<p>美術作品や美術文化などの見方や感じ方を広げたり深めたりする場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で引用した美術館等のページのアドレスを児童・生徒に伝えることで、家庭においてそのページにアクセスして、各自のペースで継続的な学習を行うことができる (B5)。

